

「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議（第14回）

開催記録

I 開催概要

日 時： 2025（令和7）年2月18日（火曜日）14時30分～16時30分
場 所： JR 東日本 現地会議室
出席者： 以下の通り

表 出・欠席者一覧

有識者	・松浦 晃一郎氏（第8代ユネスコ事務局長） ・木曾 功 氏（元ユネスコ日本政府代表部特命全権大使） ・稲葉 信子 氏（静岡県富士山世界遺産センター館長・筑波大学名誉教授） ・中井 検裕 氏（東京工業大学 名誉教授） ・西村 幸夫 氏（國學院大學 観光まちづくり学部 学部長） 【欠席】本保 芳明 氏（国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所 代表）	座長 副座長
有識者 オブザーバー	【欠席】小野田 滋 氏（公益財団法人鉄道総合技術研究所 アドバイザー） 【欠席】老川 慶喜 氏（立教大学名誉教授） 【欠席】古関 潤一 氏（東京大学名誉教授/ライト工業株式会社 R&D センターテクニカルオフィサー） 【欠席】谷川 章雄 氏（早稲田大学名誉教授）	
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区まちづくり支援部 開発指導課 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・東京都 建設局 道路建設部 鉄道関連事業課	
事業者	・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 都心業務部 ・独立行政法人都市再生機構 東日本都市再生本部 技術監理部 ・京浜急行電鉄株式会社 鉄道本部 建設部 ・京浜急行電鉄株式会社 生活事業創造本部 品川開発推進部 ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部 まちづくり部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター	
事務局	・京浜急行電鉄株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 ・東日本旅客鉄道株式会社 マーケティング本部	
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社	

当日配付資料：次第

- 資料1 [第13回（12/23）有識者検討会議議事録案]
資料2 [国際交流拠点・品川の実現に向けた、品川周辺エリアのまちづくりのステップについて]
資料3 [TAKANAWA GATEWAY CITYにおける確認調査の結果について（報告）]

資料 4-1 [日本初の鉄道が走ったイノベーションの記憶を継承する取組み]

資料 4-2 [文化財保存とまちづくりの両立に向けた取組み]

II 議事要旨

1 開会

- 第 14 回『「国際交流拠点・品川」における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議』の全体会を開会する。（事務局 JR）

2 第 13 回（12/23）有識者検討会議 議事録確認

- 修正等は本日会議終了までに指摘すること。指摘がなければ確定とする。（座長）

3 「国際交流拠点・品川」の実現に向けた、品川周辺エリアのまちづくりのステップについて

- 資料 2 について説明する。（事務局 JR）

〔JR 説明概要〕日本経済を牽引する「国際交流拠点・品川」の範囲で計画される各事業の一つとして TAKANAWA GATEWAY CITY があり、品川周辺エリアで進行中の各事業に対して先行して 3 月 27 日にまちびらきを行う。TAKANAWA GATEWAY CITY としては、鉄道開業の「イノベーションの DNA」を次世代につなぐべく「人材・叡智」、「医療」、「水素・GX」の 3 本柱と共に、「高輪築堤の保存・継承を実現するまちづくり」を進めている。1～3 街区の開業は 2026 年春を予定する。

- UR 都市機構は品川駅周辺で 3 地区の土地区画整理事業を進めており、このうち品川駅北周辺地区は、3 月の TAKANAWA GATEWAY CITY のまちびらき及び 2026 年春の 1～3 街区開業に向けて道路整備を進めている。今後は、高輪 GW 駅から環状 4 号線へのアクセス路や品川駅北口駅前広場の整備を進める。（UR）
- 京急は品川駅周辺で大きく 2 つの開発を進めており、品川駅西口地区（3 丁目地区）の再開発事業と、駅街区地区の事業となる。（京急）
- まだ構想レベルで、これから様々な動きが出てくる事業もある。（中井氏）

4 TAKANAWA GATEWAY CITY における確認調査の結果について

- 資料 3 について説明する。（港区）

〔説明概要〕5・6 街区の高輪築堤の確認調査の結果について、2025 年 2 月の「高輪築堤調査・保存等検討委員会」で提示した資料を用いて説明する。トレンチ①・②で高輪築堤の海側石垣や群杭が確認された。トレンチ③～⑥は海側石垣の上部が確認された。トレンチ⑦では、4 街区の信号機土台部と類似する張り出し遺構が確認された。トレンチ⑧・⑨は、築堤の盛土が確認された。確認された築堤遺構は、最も 5・6 街区に近い 4 街区 I 区の発掘状況と類似している。

- 文化財として石垣は分かりやすいが、土留め柵や盛土などはどのように考えるのか。（副座長）

← 石垣以外の構造物である留杭や胴木、群杭、盛土も全て含めて築堤と考える。（港区）

- 東京駅を復原した時に地下から大量の木杭が検出されたが、全て処分された。重要文化財建造物と史跡の分類の違いだと思う。（副座長）

← 地下の構造物が建造物として価値があるかどうか、あるいは史跡の範囲内かどうかの境目は決まっていないが、建造物として重要な要素であれば含めることになる。東京駅の場合は免震構造を採用することで木杭を地下に残せなかったと理解している。（稲葉氏）

← 東京駅は免震構造とする計画も含めて保存復原作業後の建物を重要文化財として指定されている。当時、木杭を残す議論はなかった。数本は保存処理をして保管してある。（JR）

- 一般的には上部の石垣が失われ、下部の石垣が残るケースが多いと思われるが、トレンチ④・⑥では写真を見ると、最上段の石垣が一段だけ残っているようだ。どのような理由によるものか。（中井氏）

← 標高から最上段の石の可能性は考えられるが、今回の調査でバラスト層などが検出されていないため、本当に築堤の最上部かどうかは確証が持てない。なぜ 1 列だけ残っているか港区として考察しきれていない。（港区）

5 高輪築堤を保存・継承するまちづくりの取組みについて

- 資料 4-1 について説明する。（事務局 JR）

- [説明概要]「高輪築堤整備基本計画策定委員会」にて全体のコンセプトを「日本の近代化の象徴ともいえる鉄道発展の歴史を通して高輪築堤とともにまち・くらしの変化を感じる」と定め、公開にあたり史跡の本質的価値の理解促進、まちづくりと連動した活用、理解を深められる空間づくりを進める。2025 年 3 月のまちびらきでは AR 体験や仮囲いを活用した展示で高輪築堤の存在の認知に努め、2026 年春には保存・公開に向けた期待感の醸成としてギャラリーのプレオープンやサインの設置等を進め、2028 年春に高輪築堤の現地公開を実現する。また、新橋～横浜間約 29 km にまつわる国内外の史料を調査・整理した、日本鉄道開業史料集「新橋・横浜間 18 哩」を 2025 年 3 月のまちびらきに合わせて完成させ、式典出席者に配付する。史料集製作にあたっては、これまでに本検討会議で頂戴したご意見も反映させていただいた。

- 仮囲いに行う展示は、将来仮囲いが無くなったときの対応を考えているか。（西村氏）

← 仮囲い内の開発の完了時期が 2030 年代で長期にわたるため、展示企画自体を適宜リニューアルしながら進めていき、今後様々な方法を検討したい。（事務局 JR）

- 5・6 街区の調査結果より、築堤上部は石垣が失われて瓦礫のような状態である。露出保存すると風化しやすいので土中保存が良いのか、そうではない保存方法があるのか、教えていただきたい。（副座長）

← 築堤全体では 1～4 街区内に一部土中保存箇所がある。2 箇所の史跡指定部分は、ご覧いただけるように露出させて保存するが、一部補強や様々な劣化対策を行い、築堤として適切なかたちで維持管理できるようにしていく。5・6 街区は今後の議論だが、土中保存か、もし掘り起こして公開するならば、相当程度の手当てが必要になると考えている。（JR）

→ 最上部の石しか残っていないような部分を露出させて保存するイメージが湧かない。修復的に保存するにしても元の形が分からない。土中保存しか成立しないのではないか。（副座長）

← 仮定の話だが、5・6街区は土中保存が最も適切に保存できると考えている。（JR）

← 今回の確認調査では下方まで掘っていないので、石垣が残っている可能性はある。埋め戻すのが保存には最善だが、現地で多くの方に見ていただけるようにと、JR 東日本は史跡指定部分で露出させて保存するにあたり、欠損している石垣に上手く周辺から出土した石を補填しながら再現する検討を進めている。（文化庁）

- 整備基本計画では、史跡指定部分を露出させて公開保存することで検討を進めている。石垣が欠けた部分をそのままにするのか石を補填して再現するのか、再現した場合にオリジナル部分と再現部分をどのように区別するか、劣化しないようにモニタリングする方法といった技術的な面も併せて検討している。保存管理していく技術自体も展示の対象となると考えている。（中井氏）
- 資料 2 に「イノベーションの DNA」という言葉が記されているが、「イノベーションの DNA」の内容について解説されるよう展示で工夫してほしい。品川を国際交流拠点とすることの意味が来場者にリアルに伝わり、理解も深まると考える。品川が日本の鉄道の起源であったこと、岩倉使節団の出発地であることから、近代化の起点であるという話に繋がり、これらの当時の品川が果たした役割こそ「イノベーションの DNA」として将来へ伝えていくべきものではないか（西村氏）
- 資料 4-2 について説明する。（事務局 JR）
〔説明概要〕まちづくりと文化財保存の両立の取り組みとして、区画道路 2 号の一部歩行者専用道化について説明する。「高輪築堤跡保存活用計画等策定・検討委員会」において、史跡区域の第 7 橋梁部内に位置する区画道路 2 号を史跡に配慮した形に計画変更できないかという提言を受け、事業者間で調整を続けてきた。結果として遺構への影響が小さくなり、築堤の視点場を確保できる一部歩行者専用道として整備できることとなった。これに伴い、区道から JR 東日本が管理する私道となるが、歩行者中心の滞留・憩いの空間として、第 7 橋梁部現地公開と一体的に整備を進めていく。
- まちづくりと文化財の両立を図るために、区画道路 2 号の私道化に際して大変多くの課題があったが、国土交通省をはじめ、東京都、港区のご理解のもと、JR 東日本で将来にわたって管理を担っていただく決断により実現することができた。関係者皆様のご尽力に感謝するとともに、整備を進めていくにあたり引き続き連携をお願いしたい。（UR）
- もともとは「高輪築堤跡保存活用計画等策定・検討委員会」からの提言だが、関係者の皆様の粘り強い協議により、2 年かけてようやく合意にたどりつくことができた。皆様のご尽力に感謝する。（中井氏）

6 その他

- 「その他」として他になければ閉会とする。（座長）

7 閉会

- 本日は終了する。（事務局 JR）

要旨以上

III 記録

1 開会

- [事務局 JR] ただいまより、第 14 回「『国際交流拠点・品川』における高輪築堤等の価値・あり方に関する有識者検討会議」を開会する。
- [事務局 JR] 本日は本保氏、オブザーバーの老川氏・小野田氏・古関氏・谷川氏が欠席となる。
- [事務局 JR] 配付資料の確認を行う。資料の欠損があればその旨申し出いただきたい。
- [事務局 JR] 本日の次第を説明する。
- [事務局 JR] ここからは座長に進行をお願いする。

2 第 13 回（12/23）有識者検討会議 議事録確認

- [座長] 議事録について、毎回しっかりとした資料を作成いただき、感謝する。各委員で修正の指摘をしていると思うが、最終として本日会議終了までにご指摘いただきたい。

3 国際交流拠点・品川の実現に向けた、品川周辺エリアのまちづくりのステップについて

- [事務局 JR] 資料 2 について説明する。品川周辺エリアの各事業と TAKANAWA GATEWAY CITY との関係を整理した。日本経済を牽引する「国際交流拠点・品川」の範囲において官民連携により数多くの事業が動いている。駅改良や京急線連立関係の工事、環状 4 号線や土地区画整理事業などの基盤整備事業、品川駅街区地区の整備事業、その他周辺のまちづくり等がある。「国際交流拠点・品川」の範囲で計画される各事業の一つとして TAKANAWA GATEWAY CITY があり、3 月 27 日にまちびらきとして 4 街区が開業する。2026 年春には 1 ～ 3 街区が開業する。高輪築堤をまちづくりの中で継承していくことにより、地域の歴史的価値向上や地域社会への貢献を目指していく。TAKANAWA GATEWAY CITY のまちづくりは 2009 年 7 月の車両基地再編着手からスタートしている。鉄道開業の「イノベーションの DNA」を次世代につなぐべく「人材・叡智」、「医療」、「水素・GX」の 3 本柱と共に、併せて「高輪築堤の保存・継承を実現するまちづくり」を掲げている。品川周辺エリアで進行中の各事業に対して、TAKANAWA GATEWAY CITY が先行してまちびらきを行う関係性となっている。
- [UR] UR 都市機構は品川駅周辺で 3 地区の土地区画整理事業を進めている。このうち高輪ゲートウェイ駅周辺の品川駅北周辺地区において JR 東日本と連携し、TAKANAWA GATEWAY CITY のまちびらきに合わせて 4 街区周りの既に供用している道路を新たに整備している。また、2026 年春の 1 ～ 3 街区の開業に向けても、各街区周りの道路を新たに供用開

始する予定であり、鋭意その整備を進めている。その後、品川駅方面に開発を進めていき、「国際交流拠点・品川」における品川駅の交通結節機能の強化、拠点形成に向けて高輪ゲートウェイ駅から環状 4 号線へのアクセス道路や品川駅北口駅前広場の整備を土地区画整理事業によって進めていく。また、品川駅西口にある品川駅街区地区においては、JR 東日本と京急の駅ビル整備、京急線の連続立体交差化事業、西口駅前広場の整備等々と連携して事業を進めている。

[京急] 京急は品川駅周辺で大きく 2 つの開発を進めている。一つは品川駅西口地区（3 丁目地区）、この中の A 地区について京急とトヨタ自動車で再開発を進めている。もとは SHINAGAWA GOOS という建物があり、建て替えを行う。「国際交流拠点・品川」に相応しい複合施設を目指して、オフィス、商業、ホテル、MICE 等の整備を計画しており、2025 年 5 月に新築工事に着工して、2029 年度の開業を予定している。もう一つは駅街区地区の事業であり、こちらは 2024 年に都市計画決定をさせていただき、JR 東日本と共同で開発を進めていく。京急は南棟の開発を担当しており、現在、連立事業と連携しながらビル下部の工事を実施している。連立工事完了後に本格的に着工し、2036 年度の開業を予定している。その他、泉岳寺駅地区の再開発や土地区画整理事業にも参画をしている。

[中井氏] 品川駅東口北地区、品川駅西口地区（4 丁目地区）、品川浦周辺地区の事業はまだ構想レベルであり、これから様々な動きが出てくるところである。その他については、各事業者から十分なお説明をいただいた。

[座長] 質問、意見はあるか。

[座長] 3 月 27 日のまちびらきの概要はどのようなものであるか。また、5・6 街区を含めた全体開業はいつ頃になるのか。

[事務局 JR] 3 月 27 日のまちびらきでは、高輪ゲートウェイ駅正面にある 4 街区の建物が開業する。そこには交通広場や駅前広場、国際会議場等の様々な施設が含まれる。高輪築堤の継承として、ランドスケープにおける石積みやレールの埋込等もご覧いただきたい。

[事務局 JR] 高輪ゲートウェイ駅は現在北側の改札のみであるが、南側の改札も 3 月 27 日初電より利用開始となる。

[事務局 JR] 5・6 街区を含む全体の開業は、高輪築堤の調査を経て保存方針の議論を重ね、これが整い次第、関係行政の皆様と都市計画の手続きに向けて協議に入っていくため、もうしばらく時間がかかる。

[座長] 他になれば次の議題に移る。

4 TAKANAWA GATEWAY CITY における確認調査の結果について

[事務局 JR] 港区から報告を頂く。

[港区] 資料 3 について説明する。5・6 街区の高輪築堤の確認調査の結果について、2025 年 2 月の「高輪築堤調査・保存等検討委員会」で提示した資料を用いて説明する。今回実施した 9 か所のトレンチ調査と共に、

過去に実施した京急連立事業、環状 4 号線、仮斜路部等の調査結果と併せて整理した結果、高輪築堤の範囲が概ね推定できた。9 か所のトレンチでは全てで高輪築堤の痕跡が確認された。各トレンチの確認結果を図と写真で示す。トレンチ①・②で、高輪築堤海側石垣、群杭が確認された。トレンチ③～⑥は、海側石垣の上部が確認された。トレンチ⑦では、調査前に想定していなかった 4 街区の信号機土台部と類似する張り出し遺構が確認された。今回は確認調査のため、広く掘削して内部構造の確認はしておらず断定はできないが、4 街区の信号機土台部で確認された十字基礎と類似した角材が一部確認された。トレンチ⑧・⑨は海側石垣に当たらない位置を想定していたが、想定通り築堤の盛土が確認された。確認された築堤遺構は、最も 5・6 街区に近い 4 街区 I 区の発掘状況と類似している。

- [事務局 JR] 参考資料として、1 街区から 6 街区までの検出状況について、事業者としてまとめた資料を提示する。
- [座長] 1 街区から 6 街区までの検出状況をまとめたこの資料は、専門家でなくとも大変分かりやすい。
- [座長] 質問、意見はあるか。
- [副座長] 線路が複線化されて山側に拡張されていく。この拡張した部分については文化財としてどのように考えているか。当初の築堤からどんどん広がっていく。土留め柵などはどのように考えるのか。石垣は分かりやすいが、盛土はどのように考えるのか。
- [港区] 今回の 5・6 街区の確認調査では、拡張期の範囲を特定出来てはいない。拡張期の盛土の裾のラインは京急連立事業の範囲にかかっており、別の調査内容となる。今後開業期から 3 線化期までの流れを整理していく。
- [港区] 石垣以外の構造物である留杭や胴木、群杭、盛土も全て含めて築堤と考える。
- [副座長] 東京駅を復原した時に地下から大量の木杭が検出されたが、全て処分された。重要文化財建造物と史跡の分類の違いだと思う。
- [稲葉氏] 地下構造が建造物として価値があるかどうか、あるいは史跡の範囲内かどうかの境目は決まっていない。杭が建造物として重要な要素であれば、含めることになる。特に東京駅を含めて日比谷界限は埋め立てをしているので、建物の基礎をどのように設計・施工したかということとは歴史的に重要だと思うが、東京駅の場合は免震構造を採用することで木杭を地下に残せなかった、という事情があったと理解している。その後、木杭をどうしたかは記憶していない。
- [座長] 東京駅の木杭はいつ頃の杭になるのか。建設はいつであったか。
- [JR] 1914 年である。東京駅は免震構造とする計画も含めて保存復原作業後の建物を重要文化財として指定されている。免震構造すなわち基礎は作り変えることとしており、当時、木杭を残す議論はなかった。数本

は保存処理をして保管してあるが、それは文化財を保存するという概念ではなく、珍しいものを保管した、という扱いである。

[中井氏] 大変丁寧に調査をされて結果を出されていると思う。トレンチ①・②の石垣は史跡指定地の石垣と似ている印象だが、トレンチ④・⑥の写真を見ると最上段の石垣が一行だけ残っているようだ。一般的には上部の石垣が失われ、下部の石垣が残るケースが多いのではないかと。港区教育委員会として、これがどのような理由によるものか見解を議論されていたら教えていただきたい。

[港区] 標高から最上段の石垣部分の可能性は考えられるが、今回の調査でバラスト層などが検出されていないため、本当に築堤の最上部かどうかは確証が持てない。なぜ一行だけ残っているか、特徴的であると捉えてはいるが、港区としてその理由までは考察しきれていない。

[座長] 他になれば次の議題に移る。

5 高輪築堤を保存・継承するまちづくりの取り組みについて

[事務局 JR] 資料 4-1 について説明する。日本初の鉄道が走ったイノベーションの記憶を継承する取り組みについて、「高輪築堤整備基本計画策定委員会」で議論している内容を紹介する。コンセプトを「日本の近代化の象徴ともいえる鉄道発展の歴史を通して高輪築堤とともにまち・くらしの変化を感じる」と定めている。公開にあたり、史跡の本質的価値の理解促進、まちづくりと連動した活用、理解を深められる空間づくりを進める。2025 年 3 月のまちびらきでは、AR 体験や仮囲いを活用した展示で高輪築堤の存在を認知してもらうことに努め、2026 年春には保存・公開に向けた期待感の醸成としてギャラリーのプレオープンやサインの設置等を進め、2028 年春に高輪築堤の現地公開を実現する。

[座長] 2026 年春時点の 4 棟の建物を解説していただきたい。

[事務局 JR] 2025 年 3 月のまちびらきで開業するのは 4 街区の「THE LINKPILLAR 1」と呼ぶ 2 棟であり、30 階建てで国際会議場や大学、オフィス、商業施設が入る。2026 年春時点に開業する 3 街区の「THE LINKPILLAR 2」はオフィスやギャラリー、エネルギーセンターが入る。1 街区の「TAKANAWA GATEWAY CITY RESIDENCE」は住宅のほかインターナショナルスクールが入る。全て JR 東日本が所有する建物となる。

[座長] これらが 2026 年に開業するのは驚きである。

[事務局 JR] 資料の説明を続ける。築堤を感じられるランドスケープの整備として、各所に築石やレールを整備して築堤を感じられる工夫を施す。史跡区域は公園部が街区公園と一体的な整備、第 7 橋梁部はギャラリーと連携する。サイン計画は、まちびらき時点で 4 か所の案内・解説サインを設置し、2026 年頃に築石活用サイン、2028 年頃に駅前案内サインを設置する。

[事務局 JR] 最後に日本鉄道開業史料集「新橋・横浜間 18 哩」を紹介する。「高輪築堤の価値を次世代に継承する取り組みの一環として、新橋～横浜間

約29kmにわたる記録史を、文献調査などによって整理し、編纂するプロジェクトを立ち上げます」という2022年5月のプレスリリースに基づくものとなる。本会議有識者オブザーバーの小野田氏に監修をいただいて国内外から史料を集めたものであり、2025年3月のまちびらき時に完成させて、式典出席者に配付する。愛知県の西尾市岩瀬文庫にある新橋横浜絵図の全てを紹介し、史料編として新橋・横浜間にまつわる様々な史料を収める構成である。製作にあたっては、これまでの本検討会議で頂戴したご意見も反映させていただいた。

- [座長] イギリスの近代的な技術と日本の伝統的な技術の成果であることが、この史料集で広く伝わって欲しい。
- [座長] 質問、意見はあるか。
- [西村氏] この史料集は分厚いものになるのか。持ち運べるのか。
- [事務局 JR] 約100ページを予定しており、持ち運べる。
- [西村氏] 大変魅力的な内容であり、これは欲しい方がたくさんいらっしゃるのではないかと。市販は考えているのか。
- [事務局 JR] 現時点で市販は考えていない。
- [西村氏] 整備基本計画策定委員会の議論と本検討会議の議論との関係や役割分担を教えてください。
- [事務局 JR] 本検討会議は価値のあり方について幅広い議論であり、保存活用計画は文化庁の認定をいただいた法に則った対応である。整備基本計画策定委員会は保存活用計画を踏まえて具体的な整備を定める方法に特化したものであるが、その考え方には本検討会議の議論を事務局として反映させていただいている。
- [西村氏] 2つの会議体の違いについて理解しました。仮囲いに行う展示は興味深いですが、仮囲いである以上、ある時期まで限定のものとなる。将来囲いが無くなったときの対応をどのように考えているか。
- [事務局 JR] 仮囲い内の開発の完了時期が2030年代であり、期間が長いので展示企画自体を適宜リニューアルしながら進めていきたい。AR体験は当初はQRコードを仮囲いに表示するが、仮囲いがなくても実現できる。今後様々な方法を検討したい。
- [副座長] 5・6街区の確認調査が終わり、概ねのことが分かってきた。築堤上部は石垣が失われて瓦礫のような状態である。現地保存とした場合、露出保存すると風化しやすいので埋め戻して土中保存が良いのか、そうではない保存方法があるのか、教えてください。
- [JR] 5・6街区に限らず、築堤全体のこととして回答する。1～4街区内には一部土中保存箇所がある。2箇所の史跡指定部分は、ご覧いただけるように再度土を取り除き露出させて保存するが、有識者の皆様にご議論をいただき、構造的な確認を経て一部補強や様々な劣化対策を実施することによって、築堤として適切なかたちで維持管理できるよう勉強を進めている。5・6街区は今後の議論だが、土中保存か、も

し掘り起こして公開するならば、相当程度の手当てが必要になると考えている。

[副座長] 先程、中井氏からご指摘のあった、最上部の石しか残っていないような部分を露出させて保存するイメージが湧かない。掘り出せば急速に劣化してしまうだろう。修復的に保存するにしても元の形が分からない。土中保存しか成立しないのではないか。

[JR] 仮定の話ではあるが、5・6街区は土中保存が最も適切に保存できると考えている。

[文化庁] 副座長が指摘された、最上部の石だけ残っている部分については、下方まで掘って調査されていないので、石垣が残っている可能性はある。JR 東日本は、史跡指定されている2街区・3街区で築堤を露出させて保存するが、欠損している石垣について、上手く周辺から出土した石を補填しながら再現する検討を進めている。埋め戻すのが保存には最善だが、現地で多くの方に見ていただけるようにと取り組んでいる。

[中井氏] 史跡部分の整備基本計画を座長として取りまとめている。基本的に2街区・3街区の史跡指定部分については、露出させて公開保存することで検討を進めている。石垣の下部はオリジナルとして残っているが上部が欠けている状態で、どのように皆様に公開するのが良いのか、また、技術的な側面とエキシビションとしてどういう形が良いか検討している。エキシビションとしては、無いものは無いままとしておくのか、それとも石を補填しながら再現するか、再現する場合にはオリジナルの部分と公開のために再現した部分を区別できるようにしなければならないのではないか、等々の観点で議論を進めている。同時に石垣が劣化しないようにモニタリングする方法といった技術的な面も併せて検討している。保存管理していく技術自体も展示の対象となると考えている。保存して皆様にみていただくために、このような先端技術を活用しています、ということも含めた展示としていきたい。

[西村氏] 展示の取り組みは大変良いと思う。資料2に「イノベーションのDNA」という言葉が記されている。品川が日本の鉄道の起源であったこと、岩倉使節団の出発地であることから、近代化の起点であるという話に繋がり、これらの当時の品川の果たした役割こそ「イノベーションのDNA」として将来へ伝えていくべきものと考え。しかし、そのような内容が「イノベーションのDNA」として資料では解説されていない。「イノベーションのDNA」という言葉だけではなくその内容が伝われば、品川を国際交流拠点とする意味が、よりリアルに伝わるのではないか。つまり、DNAのオリジンのところがもっとクリアに解説されれば、「なぜ品川か」ということについて来場者の理解が深まり、納得できるはずである。このことを展示でも工夫していただけると良いのではないか。

[座長] 「イノベーションのDNA」という言葉については、まさに西村氏が指摘された通りである。

[事務局 JR]

資料 4-2 について説明する。まちづくりと文化財保存の両立の取り組みとして、区画道路 2 号の一部歩行者専用道化について説明する。「高輪築堤跡保存活用計画等策定・検討委員会」において、史跡区域の第 7 橋梁部内に位置する区画道路 2 号を史跡に配慮した形に計画変更できないかという提言を受け、事業者間で調整を続けてきた。結果として「相互通行の道路」だったものが、遺構への影響が小さくなり、築堤の視点場を確保できる「一部歩行者専用道」として整備できることとなった。これに伴い、区道となる予定であったが JR 東日本が管理する私道となる。歩行者中心の滞留・憩いの空間として、第 7 橋梁部現地公開と一体的に整備を進めていく。

[UR]

まちづくりと文化財の両立に向けた取り組みとして、区画道路 2 号の一部歩行者専用道路化への検討にあたっては、各委員の皆様や文化財行政をはじめ、東京都、港区、JR 東日本等のご尽力に大変感謝する。高輪築堤は鉄道技術、土木技術を将来に伝えるうえで貴重な遺構であり、UR 都市機構としても将来にわたり第 7 橋梁部は文化財として保存することが重要であると考えます。そのまちづくりと文化財の両立を図るために、私道化にあたっては公道としての位置付けや、隣接する建物への交通機能を維持すること、予定されていた上下水道等のインフラ計画の見直しのほか、車両を通さないことによる周辺道路の負荷への対応、さらには道路管理者や交通管理者により管理運営する計画であった道路について JR 東日本で将来にわたり担っていただく等々、大変多くの課題があった。国土交通省をはじめ、東京都、港区のご理解のもと、JR 東日本の決断により実現することができた。この委員会で議論されてきた高輪築堤の保存・価値・継承のあり方を踏まえて、区画道路 2 号は築堤を活かし、品川全体の価値を高め、賑わいをもたらす、文化的な公共空間となるように整備を進めていきたいと考えている。引き続き関係者皆様の連携をお願いしたい。

[中井氏]

もともとは「高輪築堤跡保存計画等策定・検討委員会」からの提言であったが、様々な課題を関係者の皆様が粘り強く協議を進めて、2 年かけてようやく合意にたどり着くことができた。私からも関係者の皆様のご尽力に感謝する。

[座長]

高輪築堤に配慮した大変良い取り組みである。

6 その他

[座長]

「その他」として他になれば閉会とする。

7 閉会

[事務局 JR]

本日いただいた意見は今後の検討に活かしていく。本日はありがとうございました。

以 上